

自我境界に影響を与える SNS の構造的要因に関する試論

渡邊 素子

An Essay on Structural Factors of Social Media that Affect Ego Boundary

Motoko WATANABE

Abstract

Social media is widely used as a communication tool. However, it is also a breeding ground for interpersonal problems such as harassment, intimidation, fraud, bullying, and stalking. In psychoanalysis, the concept of the structure and function of the human mind has been systematized, and it is thought that the interpersonal problems occurring on social media can be easily understood by focusing on the concept of ego boundary. In other words, it can be inferred that troubles tend to occur when the ego boundary becomes fragile and internal reality encroaches on external reality—the latter tends to occur when information about external reality becomes scarce. Social media limits information to text, video, and audio, causing information scarcity and impacting structural factors of ego boundary.

キーワード：SNS、自我境界

Key words: social media, ego boundary

1. 問題と目的

情報通信技術の発展に伴い、コミュニケーションの円滑化を図る多くのアプリケーションソフトが開発された。それらの一部は世界的規模で普及し、短期間のうちに我々の生活に浸透した。これらは一般的にコミュニケーションツールと呼ばれている。インターネットを介したコミュニケーションツールでのやりとりは、物理的距離を超えて即時に相手と繋がることができるという“魔法”を現実のものとした。このコミュニケーションツールの中でも、SNS は新たな社会的関係を築く目的で開発されており、商用利用も含めて広く活用されている。

反面、コミュニケーションツールを介して、嫌がらせ、脅迫、詐欺、いじめ、ストーキングなど、対人関係上のトラブルが繰り広げられる様になった。たとえば、かねてより問題になっていた「振り込め詐欺」といわれる恐喝や詐欺も、電話や SMS（ショートメッセージサービス）といったコミュニケーションツールを利用した手法で知られる。SNS を巡っては、2021 年の消費生活に関する相談件数は 50,406 件にものぼり（消費者庁, 2022）、問題也多岐に渡る。若年層では「LINE 外し」といわれるいじめがよく知られているが、他にもストーキングでの執拗な連絡、相手へ付きまとうための所在確認に SNS が利用されることもあるという。

筆者は臨床場面で、ある程度の適応水準が保たれていたにもかかわらず、SNS を介することによって、自己愛の病理が露呈する例を複数経験した。特に二者関係において、

相手を無力な存在として価値下げして、相手を真に理解しているのは自分しかいない、という誇大的な自己像と、相手とその筋書きを否定しても訂正不能だという点が共通して見られた。これらのことは、自我境界が曖昧になることで、現実検討力が低下して内的現実が外的現実に浸食していると推測される。

このように、対人関係上のトラブルの背景に病理的な心性が潜んでいるのは、様々な事例で散見され、決して珍しいものではない。ただ、SNS という媒体を通じて問題が立ち現れてくるのは、SNS が持つ特徴に病理を開花させる要因があるのではないかと考えられる。本稿では、SNS の構造的特徴を整理し、事態を病理化させやすい要因について論考する。

2. SNS の特徴

総務省（2022）は SNS について、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのことを指すとし、友人同士や、同じ趣味を持つ人同士が集まったり、近隣地域の住民が集まったりと、ある程度閉ざされた世界にすることで、密接な利用者間のコミュニケーションを可能にするという特色を指摘している。また多くの SNS が、個人のプロフィールや写真を掲載できるホームページを有し、公開する範囲を制限できる日記機能などが用意されていたり、アプリケーションをインストールすることにより、機能を拡張したりすることもできる。その他、Web メールと同じようなメッセージ機能やチャット機能、特定の仲間の間だけで情報やファイルなどをやりとりできるグループ機能など、多くの機能を有している。さらに、これらの機能はパソコンだけではなく、携帯電話やスマートフォンなど、インターネットに接続できる機器があれば、時間と場所を選ばず利用することができる。このように、SNS の特徴として、ほどほどの内輪感覚を創出しやすいこと、コミュニケーションを取るための機能が充実していること、時空間の制約を超えて利用ができることが挙げられる。

3. 自我境界

ギャバードとレスター（1995；北村と北村, 2011）は、精神分析における自我境界の概念を、「非常に重要なが曖昧にしか定義されてこなかった」として、フロイトから遡り、その後にフェダーン、ジェイコブソン、ハルトマンと、定義の変遷についてまとめている。それによると、自我境界は草生期には比喻として扱われていたものが、次第に外界と自己とを隔てる実体のあるもののように扱われた時期を経て、ひとつの精神および身体機能として、絶え間なく変化する自我の属性として概念化された。また自我境界は内的自我境界と外的自我境界に分けられ、素朴な発想としての自他の分化については外的自我境界が当てはまる。

4. 考察

SNS は個人プロフィールや写真の掲載、日記機能などを有しており、それにコメントをつけられるようなチャット機能や個人間のやり取りもできる様にするなどの工夫が凝らされている。この条件は、自分を中心とする世界を容易に現出させる作用があると考えられる。これは言い換えれば、現実生活の中に各人の内的世界を顕現させる「舞台」

を作り出す構造を有しているといえよう。利用する側がそれを自覚できている場合は、あくまで自分と同じようなことに興味関心のある他者に向けての情報発信をする、というような節度を守ることができ、SNS を迅速な情報の共有や伝達を可能にする、便利で価値のある媒体として利用できる。

しかし、もともと自我境界が薄い人にとっては、「舞台」の境界が曖昧になり、現実の世界と内的な願望や空想との境界線が引きにくくなる、という事態は論理的にも予想される。小此木（2000）が、二者関係が成立する以前の自己と他者がまだ未分化な関係の持ち方を 1.5 の関係とした。SNS で対人関係上のトラブルが起こる場合、まさにこの関係性が影響を及ぼしている可能性が高いと考えられる。

10 代から 20 代前半の人たちにとっては、友人とのやり取りに、直接的なコミュニケーションは「相手にとって負担だから」という理由で避けられ、電話をするのもメールを送るのも“マナー違反”だという。Twitter や Instagram で友人の動向を察し、どうしても連絡を取らなければいけない時は DM（ダイレクトメッセージ；直接相手に送るメッセージ）を送る、というようなことも避けるべきとされる。こういった感性は、一見、SNS の“境界侵犯”をしやすい性質とは真逆に感じられるが、実際は相手と直接関わることで相手を理解するということを避け、自分の中の相手像が本当の相手だと信じて目の前にいる相手に関わるあり方は、まさに同じ問題に根差していると考えられる。

付記

本稿は「こころの絆創膏セミナー2022—ネット社会における希死念慮につながりやすい現代のさまざまな若者の問題」（名古屋大学総合保健体育科学センター主催、2022 年 12 月 6 日於名古屋大学）のパネルディスカッションにて講演した内容の一部を加筆修正したものである。

参考文献

- 小此木啓吾（2000）「ケータイ・ネット人間」の精神分析—少年も大人も引きこもりの時代 飛鳥新社
- ギャバード, G. O.・レスター, E. P.（北村婦美・北村隆人訳）（2011）『精神分析における境界侵犯』。金剛出版。（Gabbard, G. O. & Lester, E. P. (1995) *Boundaries and Boundary Violations in Psychoanalysis*. Basic Books.）
- 消費者庁（2022）「SNS をきっかけとするトラブル」『令和 3 年度消費者政策の実施の状況／令和 3 年度消費者事故等に関する情報の集約及び分析の取りまとめ結果の報告（令和 4 年版消費者白書）』84-89.
- 総務省（2022）「SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の仕組み」『総務省 安心してインターネットを使うために 国民のための情報セキュリティサイト』https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/basic/service/07.html（2023 年 1 月 20 日取得）